

今回のおすすめMENU

NO IMAGE

『死神の精度』

著者：伊坂幸太郎

出版社：文藝春秋

所蔵館：中央・石川・勝連館

請求記号：913.6イ



ちょっとあじみ



「私が仕事をする時はいつだって、天候に恵まれない。」(p.10)

「人間が作ったもので一番素晴らしいのはミュージックで、もっとも醜いのは、渋滞だ。」(p.138)

浮世離れしていて、しかしどこか人間じみてもいる死神、「千葉」。「情報部」より指示された対象者に接触し、一週間の調査の後に「死」を実行すべきかどうかを判断する事が彼に与えられた仕事である。(ただしその判断は千葉個人に委ねられる。)

本書は「千葉」と、彼の対象者達とが織りなす6つの短編集。クールでありながらも常人よりややズレている彼の感性にきっと貴方もクセになるはず。

また、伊坂氏の他の作品に登場するキャラクターがリンクする部分、世界観が共有されているところにも着目して頂きたい。これは伊坂氏の作品の醍醐味の一つである。この作品を気に入った貴方にはぜひ伊坂氏の他の作品も手に取って欲しい。新たな繋がりに気付き、更に伊坂幸太郎の世界にのめり込む事になるかも…。

SIDE MENU

NO IMAGE

『死神の浮力』

著者：伊坂幸太郎

出版社：文藝春秋

所蔵館：中央館

請求記号：913.6イ

死神、「千葉」の物語が

今度は長編で登場！

今回の調査対象者は一人娘を殺された

「山野辺夫妻」の夫、山野辺遼。

娘を殺した犯人への復讐に走る夫妻の
結末とは？